



◆当面する重点作業について

1. 晩腐病、黒とう病、カイガラムシ類・クビアカスカシバ対策をもう一度確認する。
越冬源の巻きひげや病斑の除去。また、丁寧に主幹・主枝の粗皮剥ぎを実施する。
2. 側枝、種枝の誘引、結束作業の見直し点検を実施する。
3. 防霜資材を準備する。また防霜ファン施設の試運転を行う。
4. カスミカメムシはヨモギで増えるので、毎年被害の多い園では草刈を行う。

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期：4月11日（金）～4月17日（木）頃 **発芽直前** 散布日 月 日
2. 調 合 量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
アプロードフロアブル	1000ml	カイガラムシ類	30日
Ⓢデランフロアブル	5000ml	黒とう病	休眠期

3. 散 布 量：10a当り＝2000ℓ以上
4. 留意事項

①上記散布時期にとらわれず、各園の生育状況を確認し、できるだけ発芽直前に散布する。

- ②第1回目の散布との間隔は、5日以上空ける。
- ③温暖無風の日時を選び、芽を中心に主枝、主幹にもたっぷり丁寧に散布する。
- ④ブドウトラカミキリの発生がある場合は、ガットキラール剤100倍（水1000ℓ当り10ℓ）を加用散布してもよい。ただし、ミツバチ・マメコバチ等訪花昆虫に影響があるので注意する。

◆カスミカメムシの防除対策について

展葉していく葉に、細かい穴のあく（破れ障子型）被害が毎年みられるが、これはカスミカメムシの被害である。発生源であるヨモギ等の草刈をすることが防除になる。

◆かん水について10a当り20～30ℓ程度

発芽期に水分が不足すると不発芽・発芽遅れなど発芽不揃いを起こし、その後の管理に支障をきたすことになる。乾燥が続く場合は、かん水を行う。

発芽が悪い原因を確認して対応する。不明な点は、果樹技術員までご相談下さい。

〔考えられる要因と対応〕

1. 水不足で生育が遅れている ⇒ かん水を行う
2. ねむり病（凍害・寒害）：
低温による被害だが、徒長・遅伸びして充実の悪い樹や前年までの葉の痛みや着果負荷（量・期間）による貯蔵養分の減少の影響も大きい。
凍害による傷から根頭がんしゅ病（クラウンゴール）が発生しやすい。
⇒ 治療方法は無いため、改植をする。

3. 傷害：

草刈り機が接触して傷になった・幼木時ひねった・主幹に大きな切り口があるなど、水分の流れを悪くする原因がある。

⇒ 様子を見て、樹勢が維持できない等の場合は、改植をする。

4. 虫害：スカシバ類等による食害。

⇒ 主枝への被害がある場合は、更新枝の育成を行う。

程度が軽い場合は「ロビンフット」を使用する。

5. モンパ病：根の部分掘り起こして白くカビで覆われているかどうか確認する。

ならたけ病（きのこ臭がある）と類似しやすい。

⇒ 改植する場合は、モンパ菌のエサになる根が残らないように取り除く。炭や完熟たい肥の投入も有効。掘った穴はしばらく空気にあてる。すぐに改植すると再発しやすい。フロンサイドS C500 倍の500を灌注してもよい。

6. 除草剤：切り口や表面に出た根などに薬剤が飛散していないか。定期防除後、同じタンクやホース等で除草剤を使用していないか確認する。

⇒ 様子を見て、樹勢が維持できない等の場合は、改植をする。

◆苗木の植え付け後の管理について

1. 苗木は支柱に誘引し、固定しておく。

2. 活着を良くする為、植え付け後も定期的にかん水を行い乾燥防止に努める。